

ドイツ語学ドイツ文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋文化学特論Ⅰ	ヨーロッパ文化研究入門(1)	2	森本 浩一	1学期	木	2	ドイツ文化学特論Ⅰ
西洋文化学特論Ⅱ	ヨーロッパ文化研究入門(2)	2	森本 浩一	2学期	木	2	ドイツ文化学特論Ⅱ
ドイツ文学特論Ⅰ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	1学期	金	2	ドイツ文学特論Ⅰ
ドイツ文学特論Ⅱ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 ——レッシング作喜劇『ミン ナ・フォン・バルンヘルム』 (VII)	2	佐藤 研一	2学期	木	4	ドイツ文学特論Ⅱ
ドイツ文化学特論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏としての 中欧の文化と歴史 (2)	2	佐藤 雪野	1学期	火	2	ドイツ文化学特論Ⅰ
ドイツ文化学特論Ⅱ	テキストとは何かー編集文献学入門ー	2	明星 聖子	集中(2学期)			ドイツ文化学特論Ⅱ
ドイツ文学研究演習Ⅰ	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋崎 啓	1学期	月	4	ドイツ文学研究演習Ⅰ
ドイツ文学研究演習Ⅱ	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋崎 啓	2学期	月	4	ドイツ文学研究演習Ⅱ
ドイツ語学研究演習Ⅰ	ドイツ語学研究演習	2	ナロック ハイコ	1学期	火	3	ドイツ文化学研究演習 Ⅰ
ドイツ語学研究演習Ⅱ	ドイツ語学研究演習	2	ナロック ハイコ	2学期	火	3	ドイツ文化学研究演習 Ⅱ

科目名：西洋文化学特論 I / European Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LM14208， 科目ナンバリング：LGH-LIT628J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学特論 I】

1. 授業題目：

ヨーロッパ文化研究入門(1)

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the study of European culture I

3. 授業の目的と概要：

ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語について研究する上での基礎的な知識・観点を広く学び、自らの専門研究の対象を、より広い視野のもとで捉え、その文化的意味を適切に評価できる教養を身につけることを目指す。履修者は、各分野の中核的な事象・概念のうち、自らの専門「以外」のテーマを選んで簡単な報告を行い、当該分野を専門とする学生を含む他の参加者との討議を通じて、異なる分野の視点や方法論に親しむ。教員はアクティブな議論を誘導するとともに、俯瞰的視点からの講義を行い、「ヨーロッパ的なもの」の様々な側面に学生が関心を向けるよう指導する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course students will learn some basic issues and viewpoints necessary for studying European culture and history, so as to grasp their own research subjects under a broader perspective and to evaluate its cultural meaning properly. It is main purpose of this course, that students get to know several typical subjects and methodologies in different fields from their own specialty, and become sensible of various aspects of European culture.

5. 学習の到達目標：

ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語等について研究するための基礎的な知識・観点を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will acquire basic knowledge and perspective in order to study European culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 言語研究(1)
3. 言語研究(2)
4. 言語研究(3)
5. 文学とレトリック(1)
6. 文学とレトリック(2)
7. 文学とレトリック(3)
8. 予備回
9. 哲学と宗教(1)
10. 哲学と宗教(2)
11. 哲学と宗教(3)
12. 歴史(1)
13. 歴史(2)
14. 歴史(3)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

おおむね、各回の討議への参加と発表（70%）、および最終レポート（30%）

9. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

各人に割り当てられた発表レポートを事前に準備するために、調査と執筆のための時間外学習が必要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

科目名：西洋文化学特論Ⅱ／ European Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LM24209， 科目ナンバリング：LGH-LIT629J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

ヨーロッパ文化研究入門(2)

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the study of European culture II

3. 授業の目的と概要：

ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語について研究する上での多様な知識・観点に接し、自らの専門研究の対象を、より広い視野のもとで捉え、その文化的意味を適切に評価できる教養を身につけることを目指す。授業の目標はⅠと同様であるが、Ⅱにおいて学生は、自らが関心を抱く専門的テーマについて報告する。その際、専門外の学生も十分理解できるよう、基礎的事項や問題の文脈を踏まえた丁寧な説明を心がけることで、自らの研究内容について効果的に「語る」訓練も行う。教師は補助的な解説によって発表と討議をサポートするとともに、概説的講義を通じて当該テーマ周辺の諸問題を学生が幅広く理解できるよう指導する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course students will learn some basic issues and viewpoints necessary for studying European culture and history, so as to grasp their own research subjects under a broader perspective and to evaluate its cultural meaning properly. In the second semester students will report on their own special subject, while keeping in mind a carefully articulated explanation so that other participants can well understand. Teacher supports announcement and discussion by auxiliary commentary and short lecture.

5. 学習の到達目標：

ヨーロッパの文化・思想・歴史・言語等について研究するための基礎的な知識・観点を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will acquire basic knowledge and perspective in order to study European culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 言語に関する発表と討議(1)
3. 言語に関する発表と討議(2)
4. 言語に関する発表と討議(3)
5. 文学に関する発表と討議(1)
6. 文学に関する発表と討議(2)
7. 文学に関する発表と討議(3)
8. 予備回
9. 哲学・宗教に関する発表と討議(1)
10. 哲学・宗教に関する発表と討議(2)
11. 哲学・宗教に関する発表と討議(3)
12. 歴史に関する発表と討議(1)
13. 歴史に関する発表と討議(2)
14. 歴史に関する発表と討議(3)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

おおむね、各回の討議への参加と発表（70%）、および最終レポート（30%）

9. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

各人に割り当てられた発表レポートを事前に準備するために、調査と執筆のための時間外学習が必要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

科目名：ドイツ文学特論 I / German Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LM15204， 科目ナンバリング：LGH-LIT630J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文学特論 I】

1. 授業題目：

中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目)：

Medieval German literature

3. 授業の目的と概要：

現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.

In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählig säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.

5. 学習の到達目標：

中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 中高ドイツ語入門 1 (発音)

3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)

4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)

5 中高ドイツ語文学講読 1 (1473-1474)

6 中高ドイツ語文学講読 2 (1475-1476)

7 中高ドイツ語文学講読 3 (1477-1479)

8 中高ドイツ語文学講読 4 (1480-1482)

9 中高ドイツ語文学講読 5 (1483-1485)

10 中高ドイツ語文学講読 6 (1486-1488)

11 中高ドイツ語文学講読 7 (1489-1491)

12 中高ドイツ語文学講読 8 (1492-1494)

13 中高ドイツ語文学講読 9 (1495-1497)

14 中高ドイツ語文学講読 10 (1498-1501)

15 中高ドイツ語文学講読 11 (1502-1504)

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

10. 授業時間外学習：

前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文学特論Ⅱ／ German Literature (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 研一（非常勤講師）

講義コード：LM24402， 科目ナンバリング：LGH-LIT631J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(VII)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (VII)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえ、十八世紀ドイツを代表するレッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を前学期にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのかを見極める。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッチェ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞一言一句を味わいながら、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。なお、当喜劇読了後は、『ミンナ』同様、七年戦争の影響下で執筆された一幕もの悲劇『フィロータス』(1759)を読む予定。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング(1729-81)の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

第1回：オリエンテーション

第2回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第3回：Fünfter Aufzug, Zehnter Auftritt

第4回：Fünfter Aufzug, Eilfter Auftritt

第5回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt

第6回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt

第7回：Fünfter Aufzug, Dreizehnter Auftritt

第8回：Fünfter Aufzug, Dreizehnter und Vierzehnter Auftritt

第9回：Fünfter Aufzug, Vierzehnter und Fünfzehnter Auftritt

第10回：当喜劇に関する討議・総括

第11回：Philotas. Erster Auftritt

第12回：Philotas. Zweiter Auftritt

第13回：Philotas. Zweiter Auftritt

第14回：Philotas. Zweiter Auftritt

第15回：Philotas. Dritter Auftritt

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。

9. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。

参考文献は以下の通り。 Goethe, Johann Wolfgang: Götz von

Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder

Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart:

Reclam, 2004./

柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。

10. 授業時間外学習：

ギリシャ悲劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文化学特論 I / German Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野（非常勤講師）

講義コード：LM12207， 科目ナンバリング：LGH-LIT632J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学特論 I】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史（2）

2. Course Title (授業題目)： Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (2)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション

2. プラハの歴史 1

3. プラハの歴史 2

4. ボヘミアとドイツ人 1

5. ボヘミアとドイツ人 2

6. プラハとユダヤ人 1

7. プラハとユダヤ人 2

8. 映画「この素晴らしき世界」 1

9. 映画「この素晴らしき世界」 2

10. プラハのドイツ文学 1

11. プラハのドイツ文学 2

12. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 1

13. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 2

14. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 3

15. まとめ

8. 成績評価方法： 平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70% 期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：

予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ／ German Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中（2学期）、単位数：2

担当教員：明星 聖子（非常勤講師）

講義コード：LM98825、科目ナンバリング：LGH-LIT633J、使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

テキストとは何かー編集文献学入門ー

2. Course Title (授業題目)：

What is a Text?: An Introductions to Textual Scholarship

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語圏を中心に20世紀後半に隆盛した編集文献学という学問分野を、具体例に基づいて紹介・概説しながら、文学研究が基盤とするテキストとは何かという問題をめぐって考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course introduces and outlines the academic field of "Editionsphilologie", which prospered in the latter half of the 20th century, mainly in German-speaking countries, and discusses on which texts literary studies should be based.

5. 学習の到達目標：

ヨーロッパの人文学の伝統的なテキスト批判および読解の方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Learn basic academic skills for studying literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 プラトン『ポリテア（国家）』
- 3 ゲーテ『若きウェルテルの悩み』
- 4 シェイクスピア『ハムレット』
- 5 ニーチェ『権力への意志』
- 6 ヘルダーリン全集の変遷
- 7 聖書
- 8 チョーサー『カンタベリー物語』
- 9 ジョイス『ユリシーズ』
- 10 カフカの遺稿（1）
- 11 カフカの遺稿（2）
- 12 カフカの遺稿（3）
- 13 カフカの遺稿（4）
- 14 まとめ（1）
- 15 まとめ（2）

8. 成績評価方法：

授業への参加（80%）とレポート（20%）

9. 教科書および参考書：

明星聖子・納富信留編『テキストとは何かー編集文献学入門』（慶應大学出版会）2015年。
その他は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

次の授業で扱う教科書の章について、事前に目を通しておくことを求めます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：ドイツ文学研究演習 I / German Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LM11404， 科目ナンバリング：LGH-LIT634J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文学研究演習 I】

1. 授業題目：

近現代ドイツ短編小説講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Modern German Short Stories

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語の短編小説を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。

近現代ドイツ短編小説を講読する。今期は Heinrich von Kleist の Die Marquise von O ... を読む。Kleist はドイツロマン主義と同時代の小説家・戯曲家であるが、ドイツロマン主義とは異なる面を持つ。その文体は、一つの文の中に副文を何重にも詰め込む特異なものであるため非常に読みにくい、その文体から伝わる独特な熱が感じられるはずである。この作品においても多くの Kleist の作品に共通する「謎」が問題になるが、おそらく永遠に解決できないこの謎に受講者各人が何らかの解答を出すことが求められる。そのためにも一言一句をおろそかにしない精読が必要である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In diesem Seminar wird eine deutsche Erzählung gelesen, wobei man die Eigenschaften der deutschen Literatur im Allgemeinen bzw. eines einzelnen Autors betrachten soll.

In diesem Semester handelt es sich um "Die Marquise von O ..." von Heinrich von Kleist. Kleist, Erzähler, Dramatiker in der romantischen Zeit, hat einen anderen Charakter als die Romantiker. Sein Stil ist so kompliziert, wie z.B. in einem Nebensatz ein anderer Nebensatz eingebettet ist, dass sein Text manchmal schwer zu lesen ist, wo man aber zugleich in diesem Stil eine eigentümliche Passion fühlen muss. In seinen Werken geht es oft ein "Rätsel", auf das jeder auch in dieser Erzählung eine Antwort geben soll, obwohl es eigentlich nie lösbar ist. Man soll sorgfältig den Text lesen, ohne kein Wort zu vernachlässigen.

5. 学習の到達目標：

ドイツ語で書かれた小説を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。

作品の内容について自分なりの解釈ができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Ziel des Unterrichts ist, dass man über die Bedeutung der einzelnen Wörter und des Kontexts den Inhalt einer deutschen Erzählung genau verstehen und den Inhalt interpretieren kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 Die Marquise von O ... 講読 1, S. 104-105

3 Die Marquise von O ... 講読 2, S. 106-108

4 Die Marquise von O ... 講読 3, S. 109-111

5 Die Marquise von O ... 講読 4, S. 112-114

6 Die Marquise von O ... 講読 5, S. 115-117

7 Die Marquise von O ... 講読 6, S. 118-120

8 Die Marquise von O ... 講読 7, S. 121-123

9 Die Marquise von O ... 講読 8, S. 124-126

10 Die Marquise von O ... 講読 9, S. 127-129

11 Die Marquise von O ... 講読 10, S. 130-132

12 Die Marquise von O ... 講読 11, S. 133-135

13 Die Marquise von O ... 講読 12, S. 136-138

14 Die Marquise von O ... 講読 13, S. 139-141

15 Die Marquise von O ... 講読 14, S. 142-143

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ／ German Literature (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LM21404， 科目ナンバリング：LGH-LIT635J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

近現代ドイツ短編小説講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Modern German Short Stories

3. 授業の目的と概要：

近現代のドイツ語の短編小説を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。

今期は Robert Musil の Tonka を読む。Musil は世紀転換期のオーストリアで活躍した小説家であるが、きわめて理知的でありながら神秘主義的な側面を持つ。その文体は決して難解ではないが、文と文のつながりを理解するのは容易でない。特に接続詞 denn の使い方が独特で、この理由付けの論理を理解できるかどうか Musil 理解の鍵になると言っても好い。しかし、わざと分かりにくい表現をしているのではないので、丹念に文脈を追えば、必ず正しい理解に到達できるので、受講者にはあらゆる辞書を用いて、徹底的な精読をしてもらいたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In diesem Seminar wird eine deutsche Erzählung gelesen, wobei man die Eigenschaften der deutschen Literatur im Allgemeinen bzw. eines einzelnen Autors betrachten soll.

In diesem Semester handelt es sich um "Tonka" von Robert Musil. Musil, österreichischer Schriftsteller in der Jahrhundertwende, hat sowohl einen rationalistischen als auch mystizistischen Charakter. Der Stil selbst ist zwar nicht sehr kompliziert, aber die Verbindung zwischen den Sätzen ist nicht leicht zu verstehen. Vor allem die Verwendung von der kausalen Konjunktion "denn" ist ihm eigentümlich, das Verständnis von Musil hängt davon ab, ob man seine kausale Logik verstehen kann. Er verwendet aber nicht absichtlich eine schwer zu verstehende Ausdrucksweise. Man kann durch die genaue Betrachtung des Kontexts das richtige Verständnis erreichen. Man soll also mit allen Wörterbüchern sorgfältig den Text lesen.

5. 学習の到達目標：

ドイツ語で書かれた小説を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。
作品の内容について自分なりの解釈ができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Ziel des Unterrichts ist, dass man über die Bedeutung der einzelnen Wörter und des Kontexts den Inhalt einer deutschen Erzählung genau verstehen und den Inhalt interpretieren kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 Tonka 講読 1, S. 270-271

3 Tonka 講読 2, S. 272-273

4 Tonka 講読 3, S. 274-276

5 Tonka 講読 4, S. 277-279

6 Tonka 講読 5, S. 280-282

7 Tonka 講読 6, S. 283-285

8 Tonka 講読 7, S. 286-288

9 Tonka 講読 8, S. 289-291

10 Tonka 講読 9, S. 292-294

11 Tonka 講読 10, S. 295-297

12 Tonka 講読 11, S. 298-300

13 Tonka 講読 12, S. 301-302

14 Tonka 講読 13, S. 303-304

15 Tonka 講読 13, S. 305-306

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ語学研究演習 I / German Language (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LM12305， 科目ナンバリング：LGH-LIT636E, J， 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学研究演習 I 】

1. 授業題目：

ドイツ語学研究演習

2. Course Title (授業題目)：

German Language (Advanced Seminar)

3. 授業の目的と概要：

- 1) ドイツの最新文学を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。
- 2) 昨年・一昨年発表された文学作品を 3 週間当たり 1 作品ぐらいのペースで読んでいく。
- 3) 適時に発表やディスカッションなど、他の言語活動も行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

各自が持っているドイツ語の文学作品の読む能力を高める。
各自が持っているドイツ語のコミュニケーション能力を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Lukas Bärfuss: Malinois
2. Lukas Bärfuss: Malinois
3. Lukas Bärfuss: Malinois
4. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
5. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Landl
6. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
7. Sebastian Guhr: Die langen Arme
8. Sebastian Guhr: Die langen Arme
9. Sebastian Guhr: Die langen Arme
10. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
11. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
12. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
13. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
14. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
15. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr

8. 成績評価方法：

毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。

9. 教科書および参考書：

上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

10. 授業時間外学習：

授業の準備、宿題

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ語学研究演習Ⅱ／ German Language (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LM22304， 科目ナンバリング：LGH-LIT637E, J, 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

ドイツ語学研究演習

2. Course Title (授業題目)：

German Language (Advanced Seminar)

3. 授業の目的と概要：

- 1) ドイツの最新文学を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文学・文化の知識を身に着ける。
- 2) 昨年・一昨年発表された文学作品を3週間当たり1作品ぐらいのペースで読んでいく。
- 3) 適時に発表やディスカッションなど、他の言語活動も行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

各自が持っているドイツ語の文学作品の読む能力を高める。
各自が持っているドイツ語のコミュニケーション能力を高める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
2. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
3. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
4. Gerhard Falkner: Schorfheide
5. Gerhard Falkner: Schorfheide
6. Gerhard Falkner: Schorfheide
7. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
8. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
9. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
10. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
11. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
12. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
13. Norbert Scheuer: Winterbienen
14. Norbert Scheuer: Winterbienen
15. Norbert Scheuer: Winterbienen

8. 成績評価方法：

毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。

9. 教科書および参考書：

上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

10. 授業時間外学習：

授業の準備、宿題

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

